

## しただの郷学園小学校の統合 進捗説明会概要

日 時：令和8年2月20日（金）

時 間：午後6時開会 午後6時55分閉会

場 所：森町小学校

参加者数：17人

### 1 市長あいさつ

しただの郷未来の学校設置準備委員会は校舎視察を含めて、5回の会議を開催した。準備委員会の議事録を読んだが、委員には各回1時間半、ときには2時間、地域のため、現在及び将来の子どもたちのために思いを持って議論いただいた。この準備委員会では、大きく4点決定いただいた。1点目は小学校の統合時期を「令和10年4月」とすること、2点目は活用する校舎を「飯田小学校」とすること、3点目は小中一貫教育の形態を中学校と小学校の校舎が離れた「小中一貫教育校の施設分離型」とすること、4点目は将来下田中学校の校舎に小学校を統合するに当たっては「統合を経験した児童が2回統合を経験しないように配慮すること」である。皆さんの中には様々な思いをお持ちの方もいることと思うが、これは決定であり、4点とも委員の皆さまが子どもたちのため、地域のために決めたということを御理解いただきたい。

進捗説明会は、この準備委員会の思いを保護者及び地域の皆さまに伝えるべきと考え開催した。進捗説明会を含めこれからも保護者及び地域の皆さまに統合の検討経過をお伝えし、皆さまの御意見をお聴きしたいと考えている。

三条市は引き続き、令和10年4月の統合まで子どもたち及び地域のために前に進めていくのでよろしくお願ひしたい。

### 2 資料説明

～資料に沿って説明（野水教育総務課長）～

### 3 主な質疑

- 小学生のうちに統合を2度経験することがないように配慮するとあるが、中学生になって中学校校舎に小学生が一度に入ってくるということも大きな環境の変化で負担である。その配慮はないのか。
- （平岡教育部長） 中学校校舎への小学校統合については、小学生のうちに2度の引っ越しがないように令和15年度以降を想定しているものの、実際の子

どもの人数の推移がどうなるかという見込みは難しい。一人の子どもの環境変化が少ないようにという御意見、子どもの人数の推移を見据えて、できるだけ配慮して進めていきたい。

- 統合校の先生は、現在の各小学校からどのくらいの人数配置されるのか。また、統合で2クラスになる学年はどのようにクラス分けを行うのか。具体的に言えば、森町小学校の子どもたちはクラスが分かれるのか、同じになるのか。また、子どもたちが不安になっている中でどうケアしていくのか。

→ (相田学校教育課長) 先生の人事権は新潟県教育委員会にあるので、三条市教育委員会は県に要望することになる。現在、各小学校にいる先生が統合校に配置されることは必須であると考えている。ある程度の先生が統合校に配置されるように県に強く要望をしていく。

クラス替えについては、同じ学校の子どもたちはクラスを分けることが一般的である。しかし、例えば、学年に3人しかいないのに2人と1人にクラスを分けるのかということもある。3人のために同じクラスが良いのか、分けて新しい友達を作った方がいいのかは、在籍する小学校の先生と協議して決定していく。

→ (平岡教育部長) 子どもたちの不安にどう寄り添うのかについては、先日、全校朝会で統合について説明し、子どもたちも驚いたと思う。御心配をおかけしたことをお詫びする。教育委員会としては、子どもたちが他の子どもと付き合い合っていく社会性を大事にしたいという思いである。統合を進めていく上で1年生から6年生の発達段階に応じて、学校を通じてしっかりと子どもたちに働きかける。また、小中連携及び小小連携を進めているが、これまで以上に活動を活発化させて統合に向けて進めていく。

- 保育園の廃止で子どもが別の保育園に移動し、子どもは不安定になった。統合先の先生が対応してくれたものの、市が追加で先生を配置して、もう少し寄り添ってほしかった。この子どもは、小学校統合時に2年生であり、慣れたところでまた別の小学校となり大きな環境の変化となる。県教育委員会に要望することとは別に、市教育委員会が追加の先生を配置し手厚く寄り添うことはできないのか。

→ (相田学校教育課長) 県教育委員会に統合の前後何年間は職員を加配するように要望をしている。加えて、市教育委員会ができることは先生と同等の講師

を配置することと、市で雇用している心のケアをする心理専門相談員を手厚くすることを考えている。

→ 資料にそういったことを書き、周知していただきたい。

→ (平岡教育部長) 今回の進捗説明会資料は、準備委員会が統合の時期、活用する校舎及び小中一貫教育校の形態の検討をした結果を配布している。子どもたちのケア等については、これから部会で検討していく内容であり、しっかりと検討をしていく。

○ 統合後に子どもが不登校になった場合、どうするのか。

→ (平岡教育部長) むしろそうした状況にならないように、準備委員会の御意見を聴きながら教育委員会及び学校が準備を進めていく。

○ 荒沢小学校と森町小学校が統合したときの保護者であった。子どもたちは統合してもすぐに慣れて、みんな友達になったようだった。保護者は、先生と子どもたちの状況を密に情報交換して、そういう雰囲気づくりや意識の醸成ができるかが大切であると思う。保護者や地域は意見について言うことは言っていたら、地域のためになる統合を進めてほしい。

→ (平岡教育部長) 今回の小学校統合では、PTAはもちろん地域の御意見も聴くために、当時はなかった学校運営協議会及び学園運営協議会の委員に準備委員会に入ってもらっていただき、総勢60人程度で進めている。この準備委員会の中でしっかりと皆さんの意見を反映していきたい。

#### 4 教育長あいさつ

本日、御参集いただいたことに御礼申し上げます。貴重かつ極めて重い御提言をいただき、これから私達はしっかりと進めていかなければならない問題であると考えている。この森町小学校には1年間務めたことがあり、毎朝、素晴らしい風景を見ることが支えだった。本日も白銀に輝く守門栗ヶ岳の風景を目に焼き付けた。まさに下田地域の自然風景、歴史、農業及び文化を始めとする地域産業は、子どもたちにとっては素晴らしい教育資源である。現在、各小学校がこの教育資源を活用して教育活動を展開しているが、統合することで5つの小学校の良いところを一つに集約して、みんなが羨むような笑顔輝く楽しい学校を創らなければならないと考えている。

次回の準備委員会から部会が始まる。学校運営、登下校及び教育課程につい

て、貴重な御意見を聴きながら、統合小学校を創りあげる道のりを歩んでいく。皆さまからは、忌憚のない御意見及び御提案をお聴かせいただき、これからの道のりを見守り、叱咤激励していただくことを切に願います。

## しただの郷学園小学校の統合 進捗説明会概要

日 時：令和8年2月21日（土）

時 間：午後5時開会 午後5時45分閉会

場 所：ウエルネスしただ

参加者数：18人

### 1 市長あいさつ

（省略）

### 2 資料説明

～資料に沿って説明（野水教育総務課長）～

### 3 主な質疑

- 1点目は、飯田小学校校舎の改修工事で8,800万円とあるがどこをどう改修するのか。2点目は、児童クラブ受け入れは教室の面積によるとあるが飯田小学校の教室47㎡では何人受け入れできるのか。3点目は、特別な支援が必要な子どもには統合時どのような対応をするのか。4点目は、部会の委員構成はどのようになり、保護者の声は反映されるのか。

→（平岡教育部長、相田学校教育課長） 1点目、飯田小学校校舎の改修工事の内容は、詳細は現在詰めているところであるが、内容はコンピューター室を普通教室化する改修、特別支援教室を区切るパーティションの設置などを想定している。また、2点目の質問の回答にもなるが、児童クラブの基準は一人当たり1.65㎡であり、それ以上の面積を確保するための改修なども想定している。

3点目、特別な支援が必要な子どもへの対応は、障がいの種類や程度により状況が異なるため、その子どもにあった教育支援計画を作成して学習を進める。例えば、知的な障がいがある子どもには、理解に時間がかかるのでその子どもに応じたカリキュラムや時間を設定して学習を進める。また、情緒的な障がいがある子どもには、コミュニケーション能力や社会性を高める自立活動の時間を重視した特別な教育課程を組んで学習を進める。

4点目、各部会の委員は、しただの郷未来の学校設置準備委員会の委員で構成されている。準備委員会は保護者、地域及び学校のバランスをとって構成している委員会であり、その中でバランスよく意見を反映してもらいたいと考えている。

○ 子どもたちは、楽しみな反面で不安が大きい。統合に併せてスクールカウンセラーを常駐させる考えはあるか。

→ (相田学校教育課長) 現在、県教育委員会が週1回スクールカウンセラーを下田地域に派遣している。これとは別に、三条市教育委員会が心理専門相談員を必要に応じて学校に派遣している。今後も、子どもたちの様子を見た中で、相談できる体制は確保できると考えているが、意見については必要に応じて検討していく。

→ (高橋教育長) 子どもの支援体制が一番大切である。意欲を持って笑顔で令和10年4月に統合校に通えるか、また、飯田小学校の子どもたちがどのように他の学校の子どもたちを受け入れることができるのか、各小学校に頑張ってもらっていただき、各校が様々な交流をすることで仲間同士が顔見知りになり、何の障壁もなくスムーズに統合できるようにしなければならない。特別な支援が必要な子どもを含め、個々の子どもへの支援体制は県が配置する職員に加え、市が特別支援サポーター、スクールサポートスタッフ及びスクールアシスタントなどの職員を潤沢に配置し、しっかりと子どもたちを見守る必要がある。県への要望もしながら、2年間かけて体制を整える計画をしていく。

#### 4 教育長あいさつ

(省略)

## しただの郷学園小学校の統合 進捗説明会概要

日 時：令和8年2月23日（月・祝）

時 間：午後2時開会 午後3時21分閉会

場 所：下田公民館

参加者数：33人

### 1 市長あいさつ

（省略）

### 2 資料説明

～資料に沿って説明（野水教育総務課長）～

### 3 主な質疑

○ 準備委員会で質問した、駐車場の件が回答されていない。お金を掛けずに統合しようとしているようにしか見えない。学校行事には保護者にも参加してもらいたい。駐車場がないのに、統合することばかり言っても仕方ない。駐車場の拡充を約束してほしい。

→（平岡教育部長） おっしゃるとおり、統合により児童数が増えることで保護者等の集まる人数が増え、その分の駐車場が必要なことは想定している。駐車場の確保についてはこれから検討していく。

→ 検討すると言って、できなかつたでは困る。約束をしてほしい。

→（平岡教育部長） 今の段階で約束はできない。今後の検討課題とすることで御理解いただきたい。

○ 駐車場は、ウエルネスしただなど近隣の徒歩10分圏内に複数ある公共施設を活用するなど、拡充だけでなく、借用することを含め柔軟に考えていただきたい。また、ウエルネスしただの駐車場を借用することとした場合、同時間帯に学校とウエルネスしただでの事業が重なると、お互い困ることになる。事業管理も含めて、検討いただきたい。

→（平岡教育部長） 御意見も含めて、柔軟に考えていきたい。

○ 小学校5つが1つになることが最初から決まっていたように見え、ショックである。最低でも地域ごとに3つの学校は残してほしい。下田地域は自

然や人情が良いところであり、住み続けられるようにしたい。小学校が無くなれば、人口減少に拍車がかかるのではないか。どうしたら下田地域に住み続けることができるのかを考えてほしい。昔は一人でも子どもがいれば分校という形で学校を残していた気がする。学校は大きければ良いというわけではなく、小さい学校の良いところもある。地域のことも一緒に考えて小学校の統合を考えてほしい。

→（平岡教育部長） そうした御意見は、統合の検討をするに当たり早くからいただいていた。令和6年度に「未来の学校検討委員会」で、市内の小学校の在り方を議論した中で、下田地域の人口減少傾向が著しいということで、まずは下田地域の小学校統合の検討を始めた。現在、既に5校中3校で複式学級の運営をしている。子どもたちの社会性を育むためには、一定の規模で学習することが必要である。むしろ、「なぜもっと早く統合をしなかったのか」という御意見もいただいている。遅きに失することのないよう、統合を決めたことを御理解いただきたい。

○ 保育所及び中学校が近くにある立地条件を見れば、長沢小学校の校舎を活用するものと思っていた。保育園の統合時、いいだ保育園に決まった理由も駐車場とのことだった。しかし、飯田方面は行くことが難しく、千代が丘保育所に入れる保護者が多かった。保護者は、駐車場ではなく立地条件を重視している。もっと保護者や子どもの意見を聴いてほしかった。

→（平岡教育部長） 長沢小学校と飯田小学校の校舎のいずれかを決定する経過は、本当に甲乙付け難く、準備委員会でも苦しい判断だった。駐車場が大きな要因となったことは確かである。現在、長沢小学校のスクールバスは2、3台の運用であり問題はないが、統合後、スクールバスを10台程度運用することを仮定したとき、十分な安全が確保できるのかが課題であった。スクールバスは毎朝運行するものであり、乗降時に万が一でも、子どもが事故にあっては取り返しがつかないことになる。安全が確保できる可能性が少しでも高い校舎に決定したものであり、御理解いただきたい。

○ 保護者は統合をすることを非常に不安に思っており、心配である。引き続き情報を過剰なほど発信していただきたい。自分も個人的には長沢小学校の校舎を活用してほしいが、子どもの安全が第一である。クマ等獣の出没が相次いでいる中、安全を守るために必ずスクールバスでの登下校の検討を進めてい

ただきたいが、そのスクールバスで事故があつては本末転倒である。そこに気づいて提案いただいたことは納得せざるを得ないと思っている。今後は、子どもたちの心のケアを大切にしてほしい。あと2年しかない。他校との交流をいかに進めるのか。統合後に、子どもたちが楽しみに登校できる準備を進めていただきたい。また、クマ等の獣の出没に対しては、子どもたちだけでなく先生の安全も守っていただきたい。クマ対応として先生も子どもたちと一緒に歩いていたが、クマの知識がない先生と一緒に歩いて、子どもたち及び先生自身の安全を守れるのかは疑問であつた。

→（樋口教育センター長） 子どもたちの心のケア、特に交流活動については、令和10年度に向けて、既に校長と検討をしている。具体的には、小学校の交流でペア校及びトリオ校の組み替えや、これまでペア校トリオ校の活動であつたものを5校一緒に交流することなどを考えている。学校任せにせず、教育委員会も指導していきたい。

○ 子どもたちに説明したスライドは、このために作成したのか。子どもに統合の話をしたら、「学校がなくなる」といって涙を流した。また、学校で統合の説明を子どもたちにしたとき、涙を流す子どもがいたと校長から聞いた。子どもたちは既に不安であると感じた。この不安を取り除くのは保護者であり、学校や保育所の先生である。受け入れる飯田小学校の子どもたちのケアも同様に、このスライドのようなきめ細かいケアを引き続きお願いしたい。

→（平岡教育部長） 今回の統合において、子どもたちの不安を取り除き、寄り添うことは、最も大事なことである。ペア校、トリオ校の取組や5校の連携の取組、また、日常の学校生活においてもできる限り声かけを行うことを含めしっかり考えていきたい。

○ 子どもは泣いて不安がっている。不安な状況を親も払拭してあげなくてはならないと思う。また、知らない小学校に通わなければならないことも不安であると思う、子どもたちに飯田小学校の校舎を見る機会を何度か与えると良いのではないか。

→（相田学校教育課長） 子ども同士の交流を考えていたが、おっしゃるとおり、校舎に慣れることも大事だと感じた。飯田小学校の校舎を使った交流活動や取組を検討したい。

- 廃校となる校舎の利活用について、市の考えはどうか。
- (滝沢市長) これまでは統合先の校舎が決まっておらず、廃校となる校舎の利活用について話はしなかった。これからは、4校の校舎の利活用を真剣に考えていく。4校とも災害時の避難所となっており、その機能は残しつつになる。地域の声を聴きながらも、利用可能な校舎が4校にもなるので、民間企業・民間団体の活用も募らなければならないと思う。これから、地域や民間企業・民間団体など、様々な意見を募っていく。
- 数年前の大雨のとき、飯田小学校は避難所にもかかわらず周囲が水浸しで誰も近づけず避難できる状況ではなかった。結局、障がい者施設であるピュアハウスを避難所とし自分も炊き出し等行った。大雨となると、五輪峠から想像できないほどの濁流が来る。五輪峠の坂道が川になり、田んぼや畑に濁流が流れる。五十嵐川の氾濫よりも五輪峠からの濁流の方が怖い。避難所を見直した方が良いと思う。
- (滝沢市長) 避難所は今がゴールの形ではない。常々、見直しを行うことで子どもたちの安全を守っていききたい。今後とも御意見やアドバイスをいただくようお願いする。
- 大雨のときの、飯田小学校の水浸しは聞いており、小学校として安全なのか疑問である。同じく、いいだ保育園も大雨のとき濁流に飲まれる。いいだ保育園の下流が飯田小学校であり、更に危険である。
- また、地域から学校がなくなることは、地域からコミュニティがなくなることである。学校を中心にコミュニティが形成されるため、学校がなくなるとコミュニティが崩れていく。将来の下田地域が不安である。今回の統合には地域づくりの観点が抜けていると感じる。もう一度検討をいただきたい。
- (高橋教育長) 学校を核とする地域コミュニティは十分に考えてきており、地域とともに歩み、学校を創るということを教育委員会から校長先生にお願いしている。多くの自治体で学校の統合が進んでいるが、どの自治体も地域との関係は検討している。ただの郷学園全体で、新しい学校を中心とした新たなコミュニティを考えていかなければならない。各小学校が地域資源を活用して教育活動をしてきた。統合校もその教育活動を受け継ぎ、子どもたちはその地域資源の場所に赴き、地域を愛することを学んでいく。温かい教育資源を創っていただいた皆さんのコミュニティを無駄にすることなく、どのように活かす

のか考えていく。

○ 下田地域の特色を生かした教育を進めていただきたいと感じた。また、子どもたちの統合に対する不安を和らげる取組も進めてほしい。自分も下田地域に住む一員として力になれば良いと思った。

→ (滝沢市長) 統合については、皆で考えて意見を出し合いながら実行していく。最終的な責任は我々にあるものの、皆さんからも意見をいただきながら、下田地域全員が一丸となって、子どもたちの未来及び地域のために一緒に学校を創っていきたいと考えている。皆さまの御意見をいただくようお願いしたい。

○ 活用する校舎を飯田小学校とすることは、今後また検討があるのか。

→ (滝沢市長) 飯田小学校の校舎を活用することは決定事項であり、地域コミュニティについてはこれからの検討事項である。また御意見をお聴かせ願いたい。

#### 4 教育長あいさつ

(省略)